

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	5 学生の受け入れ(研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 経済学部、本学他学部の早期卒業生の経済学研究科への進学推進と後期課程進学者の確保による、収容定員に対する在籍学生数比率の向上をめざす。	→学部からの早期卒業による本研究科への受験者数、進学者数、後期課程進学者数。	C	B	B	B	B
2. エコノミストコースについて、本研究科単独カリキュラム運用から、他研究科との連携カリキュラムの運用へ見直し、学部から本研究科前期課程への高度職業人志望の進学者の段階的増加をめざす。	→社会人学生の受入れ数。	B	B	C	C	C
3. 高い学力を持った外国人留学生を確保する。	→外国人留学生の博士課程後期課程進学者数。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科において、2010年度入試より早期卒業による合格者のベーツ特別奨学金優先枠の運用内規をつくり、適用させ受験促進した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 早期卒業による優秀な人材の確保は毎年2、3名以内であるが継続されている。ただし2014年度入試では後期課程に進学する者がいなかった。後期課程進学を踏まえた優秀な人材の確保が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度入試へ向けて、「特別選抜制度」として募集することになり、説明会の実施、指導教員による告知を通じて更なる広報をしていく。	☆
		その他	
			☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか エコノミスト・コースのあり方については執行部では幾度も検討を重ねてきた。また2013年度より、執行部にてエコノミスト・コースを含む前期課程の検討を重ね、2014年度へ向けて将来構想ワーキンググループにて検討することになった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か エコノミスト・コースの将来性については結論が出ておらず、よって他研究科との連携の検討はまだ実現されていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 他研究科履修として、商学研究科や経営戦略研究科の科目を履修する者はいるため、他研究科との連携策を検討する余地はある。ただしエコノミスト・コースの抜本的な検討が優先される。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科では、外国人留学生試験の検討を行いながら、入学試験を継続してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度終了時点(2014年度入学)で外国人留学生(前期課程)の数は、前年度より増え5名となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 外国人留学生に拘らず定員充足率の観点から前期課程の抜本的な改革を優先する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	30	30	30	30	30	・5/1現在
		後期課程		3	3	3	3	3	
指標2	志願者総数	前期課程	人	27	24	16	12	15	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	0	4	0	
指標3	合格者数	前期課程	名	11	14	12	4	12	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	0	4	0	
指標4	入学者数	前期課程	名	11	13	10	3	10	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		0	4	0	4	0	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.9	0.8	0.5	0.4	0.5	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.0	1.3	0.0	1.3	0.0	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.51	0.48	0.44	0.34	0.31	
		後期課程		0.87	0.87	0.60	0.73	0.53	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	36.4%	69.2%	50.0%	33.3%	50.0%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	60	60	60	60	60	・5/1現在
		後期課程		9	9	9	9	9	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	32	26	24	15	13	・5/1現在
		後期課程		5	6	2	6	4	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	53.3%	43.3%	40.0%	25.0%	21.7%	・5/1現在
		後期課程		55.6%	66.7%	22.2%	66.7%	44.4%	